



©Yuki Asada

“DIY”で子どもたちにピカピカの黒板を!

「この黒板はチョークの粉が飛び散らないし、見やすいね。さすが日本製だ!」

青年海外協力隊員が活動するエチオピアの小学校で、子どもたちからそんな声が上がりました。古くなった黒板に、協力隊員と現地の先生たちが「チョークボードペイント」を塗っただけで、ピカピカに生まれ変わったのです。これは、絵の具の総合メーカーである大阪市のターナー色彩株式会社の商品です。

同社の平尾彰一さんは、「塗ったところが黒板として使える塗料は他社製品にもありますが、本商品のような水性塗料は珍しいのです。水性なら誰でも簡単に扱え、木のパネルや段ボールなどに塗っても黒板にできるのが特徴です」と語ります。

開発途上国の教育現場では、チョークは比較的手に入りやすいものの、黒板が

粗末だったり、そもそも黒板自体がなかったりします。その現状を目の当たりにしたのが、2010年にシニア海外ボランティアとしてガーナの教員養成校に派遣された泉伸一先生でした。泉先生は、帰国後に自分が教える神戸鈴蘭台高校の古い黒板がチョークボードペイントで見違えるようにきれいになったのを知り、途上国で役立つのではと考えました。そこで泉先生から相談を受けたのが、ターナー色彩の平尾さんです。2人のやりとりをきっかけに、同社は兵庫県から派遣される青年海外協力隊員にチョークボードペイントを託し、赴任国で使ってもらったのです。

黒板があればより良い授業ができ、子どもたちの可能性が広がる——。多くの人々を巻き込みながら挑戦は続きます。



日本から届いたチョークボードペイントで黒板を塗り替える先生たち

- ★ チョークボードペイントを6人にプレゼント!
→ 詳細は38ページへ
- ★ 商品はウェブサイトなどで購入できます。
<https://turner.co.jp/paint/chalkboardpaint/>

